

日本チェコ友好協会からのお知らせ

2021年7月18日

東京は16日に梅雨明け宣言が出され、いよいよ真夏の到来です。ワクチン接種と変異ウイルスの攻防がしばらくは続きそうですが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。チェコでは状況はだいぶ好転し、ブルノに本拠地を置くなごみ狂言会では久しぶりに観客をいれた公演を行えるようになったそうです。演奏会など劇場も再開され始めました。オリンピック後には日本でも対面の活動が出来るようになることを祈るばかりです。

第17回 日本チェコ友好協会 通常総会のご報告

集会が開催できない状況下、Ma Vlast117号をもって開催した第17回通常総会の結果をご報告申し上げます。187名の会員の皆様に審議事項および評決用はがきを送付しご審議をお願いいたしました。結果、69名の会員よりご返信をいただき、全議案についてご承認をいただきました。

通常総会 主な決議事項

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| 1. 2020年度 活動報告            | 賛成 69 |
| 2. 2021年度 活動計画            | 賛成 69 |
| 3. 2020年度 決算報告および2021年度予算 | 賛成 69 |

また皆様から貴重なご意見、またお励ましなどを頂戴いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。

チェコ語講座 オンラインです！

協会発足以来続いているチェコ語講座はオンラインで開催しています。通学に時間が取られない、集中できると受講の皆さんからは好評です。ご多忙な方、遠方の方でも手軽にご参加いただけます。パソコンがあれば簡単に聴講できる、Zoomシステムを使用しています。この機会にどうぞお試しください。

(お問い合わせ: 090-3241-7256 担当: 村田 Zoomが初めての方もどうぞお気軽に！)

費用: 全クラス 5回1万円 (途中参加の場合は1回2,000円として残額)

毎週水曜日 開催 (祝日に当たるときは休講です。)

中級継続クラス: 18時から19時半 入門クラス: 19時半から21時(現在休止中)

**年会費納入のお願い**

振り込みのまだお済みでない方、今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

■年会費

個人会員 ¥5,000 家族会員・学生会員 ¥2,500 法人会員 ¥20,000/1口

■会費振込先

①三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通 3511197 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一

②三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通 3524843 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一

## メールアドレスの登録をお願いします。

日本チェコ友好協会ではメールを通じて会員の皆様への迅速な情報提供、きめ細かいコミュニケーションを目指しています。つきましてはメールアドレスをお持ちの方は下記にてご連絡をお願い致します。(すでに登録済みの方は不要です。)

メールでのご連絡: [czfriend@outlook.jp](mailto:czfriend@outlook.jp) まで

## チェコ関連情報

### チェコセンター情報 デジタル図書館「Europe Readr - The Future of Living -」開設

EU加盟国の書籍をオンラインでご覧頂ける「Europe Readr」が始動しました。各国から選ばれた小説・絵本など、27作品をお手元のデバイスで自由に読むことができます。チェコもマレク・シンデルカ(Marek Šindelka)の作品で参加しています。ぜひこの機会にヨーロッパ文学の魅力に触れてみてください。

配信日:2021年7月1日(木)~12月31日(金)

チェコの配信作品: Marek Šindelka『Aberrant』(チェコ語原題: Chyba)

<https://europereadr.eu/en/readr-books/aberrant/> 英語・チェコ語でご覧いただけます。

## 新刊案内

### 「哀愁 1964年東京五輪三つの物語

- マラソン、柔道、体操で交錯した人間ドラマとその後 - 」

(別府育郎著、ベースボール・マガジン社販売部)

「1964年、終戦の混乱からわずか19年の東京で開催されたオリンピックは、戦後日本の青春といえた。だが光がまばゆいほど、その影は色濃く、青春であるからこそ時に儚く、時にほろ苦い。そして深い哀しみや愁いの先にも、温かな物語や希望はあった。」

著者:別府育郎 昭和33年生まれ、東京都出身。産経新聞社会部長、夕刊フジ編集局長、論説副委員長、特別記者。

産経新聞本誌に連載されたコラムに大幅に加筆して出版されました。東京オリンピック、マラソン、柔道、体操で交錯するドラマ。ヴェラ・チャスラフスカさんをはじめとするオリンピックの人生は今日までつながる壮大なドラマです。



## プラハ・フィルハーモニア管弦楽団来日公演

巨匠ピエロ・フラヴェクによって創設され、今や音楽大国チェコ屈指のオーケストラとして国際的な名声を確立しているプラハ・フィルハーモニアの来日が予定されています。

9月18日(土) 神奈川県立音楽堂、9月19日(日) 20日(祝) 東京オペラシティ コンサートホール、

9月21日(火) 高崎芸術劇場、9月23日(木) 滋賀県立びわ湖ホール、

9月25日(土) シンフォニーホール(大阪)、他。

指揮: レオシュ・スワロフスキー

プログラム: スメタナ 交響詩「わが祖国」より“モルダウ”

ドヴォルジャーク 交響曲第9番「新世界より」、他

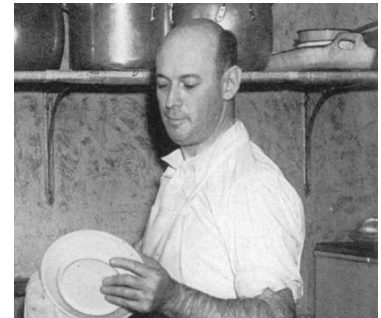
詳細は [https://www.koransha.com/orch\\_chamber/prague/](https://www.koransha.com/orch_chamber/prague/) をご参照ください

## マンドル Mandl さんってだれ?

栗栖 茜

マンドルさんて、だれのこと？ ほとんどの人がそう思いますよね。実は、私も数年ほど前まではそうでした。何がきっかけで知ったのかは正直、よく覚えていません。

マンドルさん(Rudi W. Mandl、以後略して、マンドル)が 1930 年代、アメリカに在住したチェコ人で、現代天文学できわめて重要な位置を占める、あの重力レンズの理論的発見者だとは！ 知った時おどろくというより、たまげました。ただ、マンドルのことを知っているのは一部の天文学者にかぎられ、チェコ人であるにもかかわらず、チェコ人でマンドルのことを知っている人はごく少数のようです。



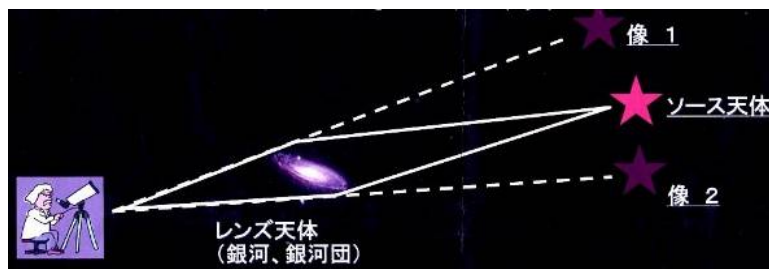
それにはいくつかの理由があります。

まずはマンドルが「天文学者」、「物理学者」ではなくて「しろうと」だったことです。そのため、彼の業績は学者のみならずからずっと無視され続けてきました。彼の名前が取り上げられるようになったのは最近のことです。

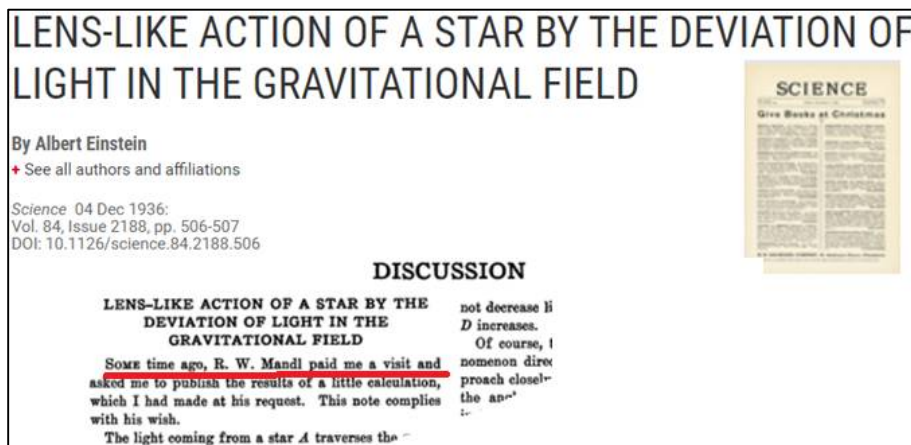
もうひとつは彼のアイデア、彼の重力レンズの理論が当時の天文学のレベルを突出したものだだったために、ほとんどの天文学者、物理学者は理解することができなかつたためです。

マンドルの考えた理論は簡単に言えば次のようなものでした。

アインシュタインの相対性理論によれば、重力の場の中で光は曲げられます。マンドルは銀河団や星雲のまわりの重力の場がレンズのような集光作用をすると考えたのです。図にすると少しわかりやすいと思います。



マンドルは多くの大学の先生たちに自分の理論を説明しようと試みたようですが、すべて門前払いをくらいました。マンドルは当時、首都ワシントンで皿洗いをして生計を立てていたようですが、思い余ってワシントンにあるアメリカ科学アカデミーを訪問し、何とか自分の論文を掲載してくれるところはないか、相談しました。ここからがちょっとすごい！ 日本では起こりえないことが起こります。対応したスタッフは、マンドルの理論が理解できたわけではありませんが、マンドルの真剣な態度になにかを感じたのでしょう。ニュージャージー州にあるプリンストン大学のアインシュタインへの紹介状を書いてくれました。そして、ニュージャージーへの旅費代まで出してくれたのです！ これが、アインシュタインとの運命の出会いでした。アインシュタインはマンドルの理論を熱心に聞き、議論をしました。そして、マンドルの理論に基づく現象は実際にはほとんど起こりえないことだが、理論的にはありうることだとして、アメリカの科学雑誌「サイエンス」に 1936 年発表します。この発表は短いもので、しかもとても変わっていてだれも見たことのないものでした。(裏面に続く)



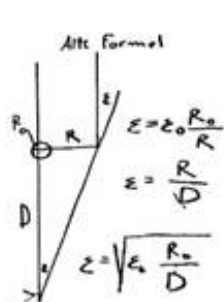
出典: <https://science.sciencemag.org/content/84/2188/506>

DISCUSSION

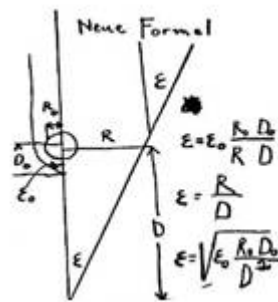
LENS-LIKE ACTION OF A STAR BY THE DEVIATION OF LIGHT IN THE GRAVITATIONAL FIELD

“Some time ago, R.W.Mandl paid me a visit and asked me to publish the results of a little calculation which I had made at his request.”、で始まる短いものでした。ここですごいのはアインシュタインがマンデルの理論をマンデルの考えたアイデアであることを明確に認め、彼の名前を出していることです。

マンデルによる重力レンズのスケッチ



原案



修正後

ただ、あの偉大なアインシュタインでさえもこの理論がその後、今のような大発展を遂げるとは想像すらできなかったようです。無理もありません。マンデルの重力レンズ理論が裏付けられ、はじめて実際に観測されたのは 40 数年後、1979 年のことでした。今では重力レンズ理論は天文学上きわめて重要な位置を占め、太陽系外惑星の発見、ブラックマター(暗黒物質)の発見、研究などで多大な貢献をしています。

マンデルは 1894 年、モラヴィアに生まれました。当時、チェコはオーストリアハンガリー帝国の支配下にあり、第一次世界大戦にも帝国下の兵士として出征しています。戦後もオーストリアで専門学校(?)を卒業して電気技師になったらしいのです。その後、アメリカに渡ったようです。チェコ人なのにほとんどマンデルの名前がチェコで知られていないのはこのような理由もあるのでしょうか。でも、マンデルさんは紛れもないチェコ人です。彼の持っている「チェコ人遺伝子」が偉大な重力レンズ理論を考え出すのに大きな役割をはたしたのではないのでしょうか。

それにしても、学問に専門家もアマチュアもあるんですかね？

《完》



Panenka plněná sušenými švestkami

チェコ料理研究家 村田祐生子

日本チェコ友好協会の料理教室でとりあげるテーマはいつも大使館のシェフとご相談して決めています。「日本で手に入る材料で、家庭で再現できること」がモットーです。今回のメニューは大統領府のシェフもつとめたカルピーシェックさんに豚ヒレ肉の料理を教してほしいとお願いしたときに教えていただきました。チェコのレストランでよく豚ヒレ肉(チェコ語ではパネンカ panenka といいます。)がスペシャリテになっているので、おいしい料理を知りたかったのです。



作り方は丸ごとのフィレ肉に包丁で穴をあけ、プルーンとベーコンを詰め込んでオーブンで焼き上げるというものです。豪快な手順ですが、焼き上がりはしっとりとし、プルーンの甘みとベーコンの塩気がお肉の味を引き立て、教室でも、自宅で作ってもみんなに大好評だったメニューです。

どこでも手に入る豚フィレが極上の肉料理の味わいになります。おすすめの逸品です。ぜひお試しください。

材料

- 豚ヒレ肉 塊 一本 (4-500g)
- プルーン(種抜きのソフトプルーン) 8個
- ベーコン 80グラム(4枚くらい) 細切り
- 塩、コショウ

ソースの材料

- プルーン 4-5個(細かく刻む) 玉ねぎ 中1個
- 赤ワイン 150cc ブイヨン 150cc
- 香辛料 ジュニパーベリー(ネズの実) 2粒 バター



作り方

- 1) 肉は塊のまま、塩、コショウをする。包丁で端からプルーンの個数だけ斜めに穴をあけ、プルーンとベーコンを肉の中程につめこむ。
- 2) 詰め物をしたヒレ肉はフライパンで全体に焼き色を付ける。
- 3) 耐熱容器に乗せ、180度に予熱したオーブンで20分くらい火が通るまで焼く。
- 4) ソースを作る。みじん切りの玉ねぎをバターで黄金色に炒め、ワインとブイヨン、ジュニパーベリー、プルーンを加え、20分ほど煮る。煮えたらジュニパーベリーを取り出し(忘れずに!)フードプロセッサーにかける。塩味を調える。ソースはしっかりと濃度がある方がよくなじみます。ゆるければ火にかけ水分をとばす、濃すぎるときは水を加えるなど加減してください。
- 5) お皿にソースをたっぷりと敷いて、カットしたヒレ肉を載せる。付け合わせは塩ゆで、マッシュなどポテト料理が合います。



以上